

確かに そして 豊かに 学び合う 体育学習の創造

1 研究の仮説

仮説1

児童の実態を把握したり、身につけさせたい力を明確にしたり、指導過程や指導方法や支援の仕方を工夫すれば、基本的な技能や体力、知識を獲得することができるとともに、一人一人に満足感や達成感を味わわせることができるであろう。

仮説2

互いに話し合う活動など、友だちとの関わり合いを重視した体育学習を展開すれば、コミュニケーション能力や論理的思考力を培うことができるとともに、仲間と一緒に運動する喜びを味わわせることができるであろう。

2 研究の視点

県の5つの視点にそって米子市も研究をすすめる。

- ①学習内容の明確化
- ②学習過程の工夫
- ③効果的な指導
- ④言語活動の充実
- ⑤形成的学習評価やデータを活かした授業改善

今までの取り組みを整理し、新学習指導要領を意識した学びをどう作り上げていくか考えていく。

3 今年度の主な活動内容

○米子市小教研専門部会 研修会

第1回 平成30年 6月15日(金) 車尾小学校

第2回 平成31年 1月 7日(月) 車尾小学校

○授業研究会

・全体授業研究会

「目指せ！健康アドバイザー（病気の予防）」（6年：保健）

板井 優哉 先生 戸谷 ひろみ 先生（福米東小）

・領域別授業研究会

「マットオリンピック」（5年：器械運動）

田中 祐基 先生（成実小）

○実技研修会

・パラスポーツ 「ボッチャ」

講師：鳥取県ボッチャ協会の皆さん

○実践研究集録「飛翔」発行

○なかよし輪車交流会 7月21日(土) 福生西小学校

○スキー教室のためのスキー研修会 1月4日(金) 大山ホワイトリゾートスキー場

○各種研究大会。研修会参加

- ・県小体研夏季一泊研修会 8月6日(月)～7日(火) 水明荘、東郷小
- ・鳥取県小学校体育研究大会(日野郡大会) 10月19日 根雨小
- ・中四国小学校体育研究発表大会(岡山大会) 10月26日(金) 倉敷市

実践事例 1

「目指せ 健康アドバイザー」の実践を通して

米子市立福米東小学校 板井 優哉

1. はじめに

学習指導要領解説では、保健領域において「身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を実践的に理解できるようにすることを重視する」とされている。また「基礎的・基本的な内容を実践的に理解することとされている。このことから、単に知識としてとどめるだけでなく、児童が身近な生活における学習課題を発見し、解決する過程を通して、健康・安全の大切さに気づく力を伸ばすということが大切である」と考える。

今回、実践する「病気の予防」の実践は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが病気の発生要因となる感染症、生活習慣病、喫煙、飲酒、薬物乱用について、その起こり方とその予防法について理解させながら展開していく活動である。一般的にこの時期の児童は、かぜ、むし歯などの身近な病気の予防の仕方について、ある程度理解し、実践できている。しかし、生活習慣病をはじめとする様々な病気についての原因と予防の仕方を実践的に結び付けて認識するまでには至っていない。また、児童それぞれの生活も多様化し、いろいろな生活習慣が形成されつつある。このような時期の児童が病気の原因と予防の仕方を結び付けて実践的知識を身に付け、生活習慣を改善して健康な生活を送ることができるようになることは大切なことである。また、喫煙、飲酒、薬物乱用の低年齢化は社会問題となっているが、それらの害を正しく理解させ、自分の健康は自分で守るという意識を高めることも必要である。さらに、健康な生活を送るための方法として、地域では、保健に関わる様々な活動が行われていることを理解させることが重要である。

2. 取り組みの実際

(1) 養護教諭との連携

授業では、TTとして養護教諭にも授業に参加してもらった。専門的な知識を活用し、鳥取県の癌患者の割合や、動脈硬化について児童に説明する時間を設けた。癌や動脈硬化については、児童も触れる機会も少なくイメージしにくいと予想できる。担任のみで授業を行うのではなく、保健分野で専門的な知識をもった養護教諭から、児童に話をしてもらうことで児童が獲得する知識に、より深みをもたせることを狙った。



(2) 資料提示の工夫

資料提示の方法として、実験器具の使用・映像の活用・実物の掲示の3点を行なった。

生活習慣病の主な症状として動脈硬化が挙げられる。その説明の際に、ペットボトルを血管に、中に入っているボールを血液に見立て、動脈硬化について説明を行なった。また、その説明を補足するため、映像を用いた。口頭での説明だけでなく、具体物や映像を用いて説明することで、児童が動脈硬化をイメージしやすくするための一助になることを狙った。

また、パワーポイントで、食生活に問題があるAさんの生活を提示し、それをもとに、生活習慣病にかかりにくい規則正しい生活について考えた。そこで、塩分・糖分・脂肪分を過剰摂取したAさんの場合と、通常の摂取量を実際の塩・砂糖・油を



用いて提示した。数字だけでなく実物を提示することで、身近な食生活でも、塩分・糖分・脂肪分の過剰摂取に繋がることが把握しやすいと考えた。

(3) 食に重点を置いた授業構成の工夫

生活習慣病にかからないために気をつける事として、バランスの良い食生活・規則正しい生活・適度な運動が挙げられる。その中でも、児童にとって食事が1番身近であると考え、食に重点を置いた授業構成にした。

授業の中で、普段意識して見ることがない食品の栄養成分表を確認し、実際に塩分・糖分・脂肪分を計算する時間を設けた。こういった経験をする事とで、自己管理がしっかりとできる生活習慣の定着のため、今後自己決定する場面が増えていく食生活についての知識獲得を狙った。



4. まとめ

(1) 成果

- 実験器具を用いたり、栄養成分表を調べたりと子どもたちが実際に活動する時間を十分にとったことで、子ども達の意欲が高めることができた。また、そのことが主体的な子どもの学びにつながっていった。
- 砂糖や塩などの具体物を準備することで、子どもたちが生活習慣病についての問題意識を高めることができた。数値だけでなく具体物を提示することで、視覚的にも子どもたちが理解しやすかった。
- 養護教諭と連携し授業に参加してもらうことで、児童が獲得した知識がより深まった。保健分野は専門的な知識が多いので、担任一人では、児童の主体的な学びに繋がりにくい。主体的な学びに繋げるためにも TT や GT をうまく活用していくべきである。

(2) 課題

- 『バランスの良い食事』というのが児童の中で不明確であった。今回の授業では、塩分・糖分・脂肪分の量を考えたが、家庭科で赤・黄・緑のバランスを考える。6年生2学期の家庭科に栄養素を考えながら弁当を作る単元があるので、体育科と家庭科で連携をとって知識を深めていく必要がある。
- 自分の食生活を振り返る上で、基準が定まらず自己評価しにくい部分がある。何がベストの食生活なのか基準が設定しづらく、自分の食生活を自己評価する力がつきづらい。食生活に問題のあるAさんの例だけでなく、問題のない見本となるような例を提示するなど、判断基準を明確にする必要があったと思う。

児童の振り返り

好きな物を食べたり、帰ってきた後にすぐにたくさんのおかしを食べたりしてしまう。バランス良く食べ、すききらいなく食生活を送ってみたいです。

私は毎日朝食のバランスがよいと思う。これからも毎日バランスの良い食生活を送って、健康的な体を保ちたいです。

授業で使ったワークシート

生活の仕方と病気

日本人の三大死因

○ _____ ○ _____ ○ _____

生活の仕方が影響する病気

めあて

おすすめの生活をアドバイスしよう。

① _____

② _____

③ _____

まとめ

自分の食生活を振り返ってみよう！

自分の食生活は _____ の理由は _____

点

Aさんの生活から、よりよい食生活を送るためにどんなことに気を付けなければならないか、今日の学習を振り返ろう。

実践事例 2

「わたしたちの体育」を活用した実践事例 ～5年生「ボール運動（サッカー）」の学習を通して～
米子市立箕蚊屋小学校 大村 俊治

1 はじめに

ボール運動は、ルールや作戦を工夫して、チーム対チームの攻防によって勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、チームの特徴に応じた作戦や場を工夫して、互いに協力し、役割を分担して練習を行い、運動技能を身に付けてゲームをしたりすることが学習の中心だと言える。特にゴール型である本単元は、攻撃しやすい状況をつくり、チームの特徴に応じた作戦を話し合い、ゲームに生かすことができるように工夫することが必要である。

本学級の児童を対象に行った学習前のアンケート調査では、「体育が好き」と回答したのは、26/32名であった。しかし、「ボールを使った運動が好き」という項目に限ると17/32名と、学級の約半数という結果となり、ボール運動に対しての親しみや経験が不足していると推測できた。

今回の実践では、「わたしたちの体育」の学習の流れを基とし、挿絵や作戦を活用しながら、ボール運動が得意ではない児童も目標をもって取り組めるように工夫をした。また、振り返り欄の交流を通し、チーム内で友達と助け合ったり、分担された役割をしっかりと果たしたりすることの大切さに気付くことができるよう心掛けながら、学習を進めていった。

2 取組の実際 単元名「みのかやW杯2018」

(1) 単元計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
主な学習活動	開まく戦（試合） オリエンテーション	活動①パスをつないで、かん単なゲームをしよう。 ・三角パス・ランニングパス・パスカットゲーム ・ドリブルシュートゲーム・ボールけり出しゲーム ・2ゴールゲーム・ワイドゴールゲーム 等								単元のまとめ
		活動②ルールや作戦を工夫して、サッカーをしよう。 ・ラッキーゾーンゲーム ・得点倍々ゲーム・パスチャンスゲーム ・マンツーマン作戦・センタリング作戦 等								

(2) 指導の工夫

○思考ツールを用いた練習内容の設定

初めの試合を受け、必要性を感じたルールや練習を「すぐできる（簡単さ）」「練習が必要」「すべき（必要性）」「しなくてもよい」という4つの観点で分けた。その上で、自分たちに合った練習内容や頻度、ルール等を決定した。

○「わたしたちの体育」の挿絵や練習例の活用

練習方法や作戦で迷った際には、「わたしたちの体育」を参考にしながら話し合いを行った。

○振り返りの交流

チームの成長や、成功体験を共有する振り返りの場面を意図的に設定した。

3 成果(○)と課題(●)

○自分たちで練習を考える活動を通し、意欲的に学習ができた。

○簡易的な特別ルールを設定することで、得点が入りやすくなり、児童の意欲向上に繋がった。

○友だちの振り返りをきっかけに、励ましの声や賞賛の声が多く聞こえるようになった。

●「ボール操作」に関しては多くの練習案を出して効果的な練習ができたが、「ボールを持たないときの動き」に関しての練習が充実せず、十分な技能が身につかなかった。

<感想> そういろいろな
とにパスを回せはり
いと思います。作戦も
たうまくいきました。

<感想> パス練習が前より
上手にできたし、シュート練習
は、けこりゴールに入れたの
うれしかったです。